

五年の宣告を受けた者があるとして見玉へ、無情なる獄吏等が、叱咤罵詈の下、肉瘦せ骨細る程に苦役すると十五年、幸ひ命が有った所で、其の給與工錢は五十圓乃至七八十圓の處である（勿論監獄に由り役業に由り多少の相違は有る）先に泥棒した金と合はせても、二百圓にはならぬ、其の間の憂苦艱難は、此の外に數へなければならぬ、若し之を自由の境遇に在りて、一朝の出来心に犯罪して入獄したものと假定して、普通に勞作する者と比較して見玉へ、一年を三百六十五日とすれば、十五年は五千四百七十五日である、さうして下等勞役の日傭工錢を、一日五十錢と見れば、十五年分は二千七百卅七圓五十錢と爲る、此内疾病休業其他の故障日を一年分、即ち百八十二圓五十錢を引いても、殘額は二千五百五十五圓の所得と爲るのである、此の所得は最も安直な所を見積つたもので、而も親子兄弟妻子朋友交々談笑の間に、心置きなく得らるゝ金額であるが故に、是を彼の監獄工錢に較ぶれば、其の利害得失の如きは、素人にもよく分ることである、唯眼前の情慾に驅られ、青年の血氣に任せて、或は一時的

出来心から、或は悪友の感誘を謝絶し兼ねて、甚だしひのになると、一寸の甘口に乗せられて、一生回復の出来ぬ大罪を犯し、秋宵風冷かにして月色凄愴たる鐵窓の下に後悔をする様なことは仕たくないものである、是れは天理人道論を少らく措いて、強盜を一の營業として考へた所で、損得相償はないと斯くの如き次第である

若し夫れ謀殺や故殺や、現刑法第二編第一章第二章第三章の如き犯罪は此の問題の外である、余は唯強盜の犯罪氣ある諸子に向つて、切に望むのである、一度悪事を働いた以上は、必ず入獄しなければならぬものと觀念し、入獄は何れの方面より考へても割りに合はぬことを知つて、即ち惡念中に動く時は、忽ち入獄せるの時と觀念して入獄して勞苦すべき所を入獄前否獄外に在りて辛抱したならば、其本人に取りての幸福は勿論、親子兄弟朋友に取りても安心な譯であり、社界國家と云ふ上から云つても所謂天下泰平であり、三方四方好都合此上も無いことと有ると思ふ

こんな事を云ふのも、余は敢て教訓と云ふ様な六ヶ敷ひ趣意から云ふのでは無い、

實見した所で、泥棒が如何にも割りに合はぬ仕事であると云ふ事を知り、且つ獄中に在りても、昔の牢屋時代の様に幅は利かず、終にはヤリ切れなくなつて、首を縊つたり咽を突ひたりする者の有るのを見て、不幸斯くの如き人間をば、一人でも出したくないと思ふ同情から、此の一章を書いた譯であるから、普通道學者の説教と思はずに眞心良い方へ讀んで貰ひたいのである、亦聽いて貰ひたいのである

活地獄終

明治四十三年四月十一日印刷
明治四十三年四月十三日發行

活地獄終付

定價金二十八錢

郵税金六錢

著者 小山六之助

東京市本郷區天神町二丁目廿五番地

發行者 日高藤兵衛

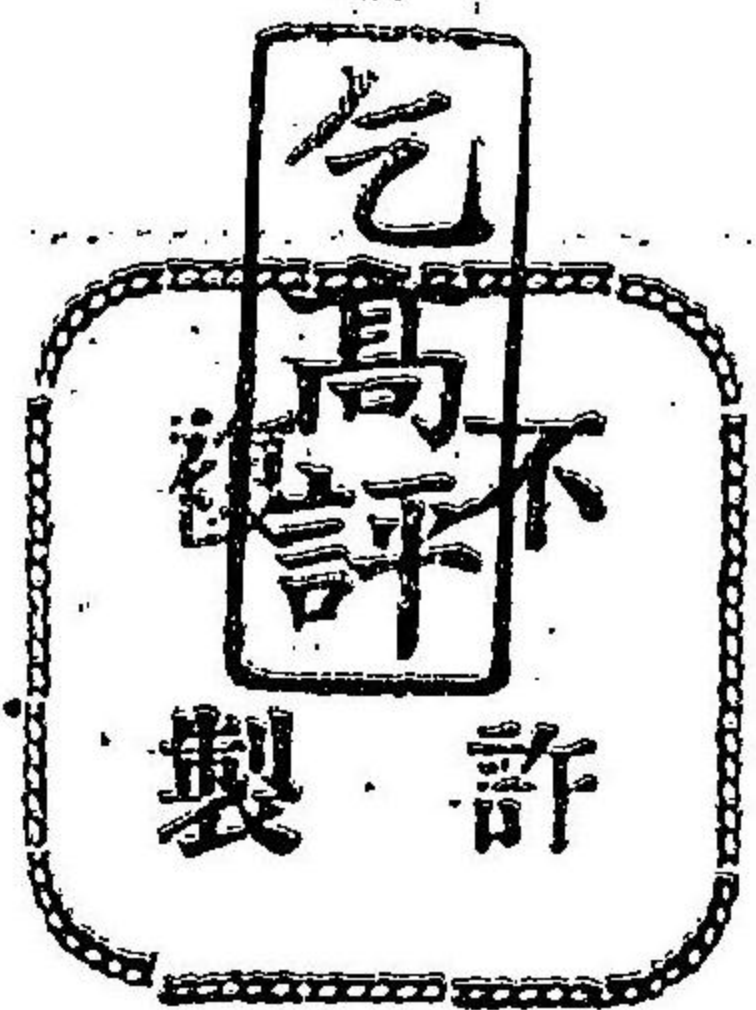
東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷者 小西幸吉

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷所 日本印刷株式會社

電話本局一八四〇番



發行所

東京市本郷區天神町
二丁目貳拾五番地

日高有倫堂

大 賣 捌 所

東京市神用區表神保町	東京市京橋區中橋廣小路	東京市日本橋區住吉町	東京市神區菱神保町	東京市日本橋區本銀町三丁目	大阪市備後町四丁目	大阪市中心區橋南久太郎町	名古屋市王屋町	名古屋市本町	名古屋市本町	遠州濱松	京都市佛光寺通鳥丸	京都市二條川原町	神戸 元町	岡山市	廣島市鹽屋町	廣島市東橋町	山口大市町	下ノ關市西南部町	筑後國久留米市
東京	前	至	上	太	吉岡	福	星野	川瀨	小澤	谷	東	寶	川瀨	山陽	積	友	白	上	菊
堂	川	誠	田	洋	寶	音	文	代	架	島	枝	文	日	籍	善	藤	支	山	竹
熊本市津町	熊本市上通町	筑前博多桃屋町	信州上諏訪町	信州松本市	信州長野市	越後國長岡	越後國水原	越後國新潟古町	高岡市守山町	金澤市片町	前橋市曲輪町	宇都宮市鐵砲町	仙臺市大町	弘前市土手町	秋田縣増田町	北海道札幌南一條西三丁目	北海道函館地蔵町	清國大連市大山通一丁目	
長	金	高	宮	松	西	西	西	西	學	宇	煥	內	藤	今	東	富	小	濱	井
崎	書	田	坂	榮	澤	村	村	村	海	都	乎	田	崎	泉	海	貴	島	井	松
次	書	日	日	榮	喜	六	六	六	支	宮	平	正	書	道	林	盛	大	松	之
郎	堂	新	新	堂	太郎	平	平	平	支	書	堂	榮	店	太郎	堂	堂	盛	之	助

四十三年四月印刷
每月訂正增補改刷

有倫堂出版書目

東京市本郷區天神町二丁目廿五番地

日 高 有 倫 堂

振替口座番八八三四番

江見水蔭著

小空中の人

定價金九拾錢
郵税金十二錢

海の人を要したる日本帝國は、更に空中の人を出さざる可らず。世界の眼は悉く飛行器に向つて注がる。今日に於て、此新要求に應ずるの健兒を意外の邊より連れ來り、奇想天外來の妙趣向を立つ、作家得意の處なり。之に加へて、曲馬乘の妖女、土蜘蛛の老賊、地底探檢の學士、政府反對の志士、氣品高き令嬢、神經鏡の夫人、失意の外人、病弱の少年、現代の一部を代表すべき人物を多方向に探し出して、これら活躍せしむる手腕は、到底他作家に於て見るを得ざる處。破天荒の快著といふも、敢て誇大にあらざるを信す。

小川煙村編

維新勤王藝者

定價五十錢
送料八錢

由來英雄の士多情多恨なり明治維新此の舞臺に現はるる英雄志士も刀鎗劍戟の殺伐なる幕のみにあらず低吟淺酌、佳妓と情事を語るの滯幕あり。本篇は即ちその維新の情史、志士の顛語を語る。木戸松菊、井上馨、伊藤博文、高杉晋作、久坂玄瑞、桂小五郎、大久保利通、西郷南洲等は、篇中の大立者にして名妓俠妓これに配す。これ著者が事實の調査に半歳を費せしものにして、一事一話も維新の活史料ならざるなし。

執筆 岡本月村
小杉未醒
山田實

小川 芋鏡編
齋藤五百枝
橋本 邦助 櫻 巷

漫畫春秋

定價六十錢
送料八錢

古人の粉本を模寫するを以て能事是れりとする日本畫の平凡無味に飽きたる人は、この漫畫帖を見て清新の趣味、獨創の筆意を味はへ、一畫一趣、玉露一椀の爽味あらん。

照山 佐々木安五郎著 (上巻 國入美製)

二千九百年前西域探險日誌

一冊八拾錢
送料拾貳錢

支那汲郡の古家より盜賊の手に於て發掘されたる蠅蚪文字の一大奇書漢字に譯して穆天子傳といふ舊說以て東洋小説の鼻祖と爲すも實は二千九百年前の西域探險日誌にして之を歴史に徴し之を地理に照らすに憑證的確一々根據あり著者燦厚の讀書眼遠望より前人未發の新天地を開闢し來り東西兩文明の基點を定め人類宗教言語風俗の同源を論じ從來許多の學說を根柢より一變せしめんとす行文流暢にして奔騰天馬空を走り玉階の觸るる處雲霧悉く五彩を騰すの觀あり之を讀む者は座ながら穆天子に見ゆべく之を讀まざる者は恐らくは盜賊にだも嗤はるべし

田口掬汀氏著

小終編伯爵夫人

定價九十五錢
送料八錢

大阪毎日 新聞に掲載讀者の 外相夫

人は終編伯爵夫人として發行す

大町桂月監修
江口 津著

心靈の研究

定價金四拾錢
郵 稅 六 錢

精神界には不可思議の事多し味ふ者は之を妄信し一知半解の徒は之を一笑に付す此書一々精神界の原理を研究し説明し普通科學にて判じ難き事を判じて精神界の光明を發揮せり讀んで眞の人生を解すべく又修養に資すべし殊に材料豊富論斷著實心を解剖し得て餘蘊なきの良著なり

小山六之助著

活地獄

定價金參拾五錢
送料 六 錢

著者は青年客氣の進しる處、柱年馬關に於て李鴻章を粗撃したる人なり、罪に服して北海道の監獄に十三年の辛慘を嘗め、特赦に遭ふて出獄す、本書は著者が苦辛十三年間の實歷談にして、彼の松平組義、五寸釘實吉、海賊房次郎等と同獄し巨細に現世の活地獄裏の消息を傳ふ一の虚構なき興味ある讀物なり

福田琴月著

關ヶ原

定價八拾錢
送料八錢

徳川家康と石田三成とが天下を賭したる大賭場は關ヶ原なり、兩雄の指揮に動く幾多の勇將猛卒は唯是れ養子に過ぎず、然してこの興味ある大博奕を活躍せしむるものは本書なり、關ヶ原の役は野戰として昔時に比なき大戦にして、兩雄の兇算神謀實に史中の一大異彩なり、本戰の原因結果を詳叙したる本書は興味ある歴史的研究の一奇書たり

執筆 小杉未醒 橋本邦助 本田穩堂
小川芋鏡 太田三郎 坂井紅兒
講伯 當舍蛇男 伊島正三郎 岡本月村

漫畫百趣

定價五拾錢
送料 六 錢

本編は滑稽に盛名ある數氏が天來の興を畫筆に移して、縦横に揮灑したる百箇百趣に、鹿島櫻巷氏の畫體的俳句俳文を添ふ、俳畫あり、諷刺畫あり、寫生圖あり奇想妙構、各畫伯の特色を發揮して餘蘊なし、以て机上の珍となすに足る

鹿島櫻巷編

景情小品

定價金參拾五錢
送料 六 錢

景の映する處文を成し、情の動く處詩を成す、一景一情皆別様の文致詩趣を備ふ、然して執筆の諸大家は眞山青果、島崎藤村、小川未明、水野葉舟、河井醉茗、瀧田龍軍、吉江孤雁、松原至文等の十數家、いづれも特色ある無類の詩編凡そ數十編を輯む、小品文の粹を抜きれば、各家の苦心の文態を窺ふべく、作文の好資料たり

大町桂月著(上製)

月影集

定價六拾錢
送料 八 錢

大町桂月先生の文名當代を壓せることは今更喋々を要せず其文章月として世に出でざるなく一作として愛讀せられざるなく世上の讀者常に其一冊に集まらむことを熱望して止まず本店並に先生の近作を集め舊作の粹を抜く綱と平淡との對照面白く而かも仰ぐべき人格の美一貫して躍動す燈火稍親むべきの侯讀書家の机上此絶好の一篇無かる可けんや

中江兆民著 (菊版總クローヌ製函入)

兆民文集

定價圓七拾錢
送料拾貳錢

死に臨み一年有半を著して文名を復活したりし中江兆民先生は實に明治の一大奇才なり其人物や其主義や其識見や其學問や其文章や凡を離れ群を抜いて永遠に生命あり然るに其作散逸して世に傳はらず洵に昭代の恨事とす弊店茲に先生の傑作を集む先生の面目此一卷の中に躍如たり大方の君子願くは一本を座右に備へられむことを

田岡嶺雲著

明治叛臣傳

定價五拾五錢
郵稅 八錢

吾國に於ける古來一切の叛臣は一も朝敵たるものなく、只時の政府に反抗せし迄也。故に叛臣と云ふと雖も其實熱烈の如きは野黨が専制政治に反抗するに、筆舌を迂なりとして腕力を以てせし迄の事のみ。此意義に於て明治前半の叛臣は多くは名士なり偉人なりと云ふべし。今や夫等の人士にして、幸に存在するものあるも今にして之れを記載せざれば、恐くは明治の進歩に功績ある裏面の史實日ならずして煙滅に歸するあらんことを、此本書のある所以也。

大町桂月、白河鯉洋、笹川臨風、樋口龍峽合編

おら雲

定價圓六拾錢
送料金拾貳錢

筆を取るもの數十名皆當代一流の論客文士、政治家あり。學考あり、小説家あり、明治文壇の偉觀收めて集中にあり、苟も文學を口にするとは必ず此の集を携へざるべからず。

綱島梁川譯 (製本美)

ルナン耶穌傳

定價圓五拾錢
郵稅金八錢

本書は故綱島氏念心愛讀の書にしてルナン明快の想と梁川瑰麗の文に接せんとする士は本書を讀むべし。

眞山青果著 (上製)

四十二年

定價七拾錢
送料八錢

眞山青果氏は自然派の大家として世既に定評あり本書は氏が最近の傑作として好評を博せる櫻、壁の花、等を初めとし移轉前後、親戚、其他數編を輯む若しそれ當代の文學を味はんと欲せば本書を讀むべし。

大町桂月、樋口龍峽 共編

千波万波

定價圓廿錢
送料金拾貳錢

本店先に「むら雲」を發行して、江湖の大喝采を博せり。今又此書を發行す。井上新渡戸、芳賀の三博士を初め徳富蘇峯、樋口龍峽、久保天隨、大町桂月、小杉天外、廣津柳浪、柳川春葉、三島霜川、小川未明、馬場孤蝶、木下尚江、大野酒竹國府輝東、伊藤銀月等數十の大家の論文あり、小説あり、紀行文あり、隨筆ありて、現代文壇の粹を鍾め、精を抜く、是れ、文海珍書、千波萬波の壯觀を極む。

故國木田獨歩氏 合著

齋藤松洲氏意匠

小黃金の林

定價八拾五錢
送料八錢

文名一世に冠たる故國木田獨歩氏の遺稿并に同夫人治子女士の出世作を收めたるもの也内容に獨歩氏生前の家庭及事業の失敗歴史を直寫せるもの獨歩氏が生前如何に悲痛の運命に哭きしか此の不過なる天才の面目は紙面に躍如たり加ふるにモデルは總て實在の人物にして生前の彼れが生活内容を知らんと欲する者は須らく此の一編を見ざる可らず

小説

新猛

火

定價圓廿錢
送料八錢

大册函入頗美本
中村不折氏畫

伯爵夫人

上卷 定價各八拾錢
下卷 送料八錢

女夫波

合本 定價圓廿錢
送料貳拾錢

田口掬汀氏三傑作

文科夏目先生校閲(チャールズ・ラム著) 大田先生序文(文學士小松武治譯) 講師ロイド先生

版二十 標註 沙翁物語集 定價七拾五錢 郵税金八錢

本書は沙翁戯曲中最も有名なる四大悲劇四大喜劇に加ふるにロメオ、ツェリエット及冬物語等通して十編の物語を採録し精緻なる翻譯を試み懇切なる註解を施し加ふるに數種の附録を以てす。特に文科大學講師先生の校閲を仰ぎたる者にして苟も沙翁戯曲の何たるやを窺はんと欲する士は須らく一本を購ふて座右に備ふべき也。

伊藤銀月著 小杉未醒畫(挿繪十枚)

再版 新譯 水滸傳 定價八拾五錢 送料金拾貳錢

水滸傳は支那の叛骨發成書也其革命精神也風雲轉た急にして革命の火氣大陸に霹靂する今日、本書は新に出でたる物の如く時代の人に歡迎せらるる朝鮮より延いて支那をも我と混一視するの抱負ある日本男兒は必ず之を讀むべしされど馬琴蘭山の舊譯は唯だ其皮相のみ銀月氏が言文一致の斬新なる譯文成りて原著却つて顔色を失ふを見る未醒君の挿繪と相俟つて第一の奇書!

大町桂月先生選

版九 時代青年文集 定價各四拾五錢 送料六錢

桂月先生最も青年を愛し指導教訓須臾も懈らず愛に滿天下青年諸子の傑作數十篇中より其尤なる者を選び厳正なる批評を加へ附録には當代諸大家の名篇を添へて錦上更に美花を飾る

大町桂月著

版十 我が文章 定價四拾八錢 郵税金六錢

桂月先生の文章愈老熟して縦横自在真情流露し行く處に行き止る處に止まり些の街ふ所なく苦む所なく直ちに人を以て文を遣り洒落飄逸に快閑にして男性的意氣を發揮し而かも言外に情熱溢る文此に至れば聖なり先生の文の如きは當代の逸品なり

大町桂月著

版七 家庭と學生 定價參拾八錢 郵税金六錢

家庭教育の大切なる事を今更のやうに感じ感者の一得もやと世の青年男女の前に呈し合せて世の父兄の前にも呈す

大町桂月著

版六十 わが筆 定價四拾五錢 郵税金六錢

著者靈活の才筆を以てす家庭學校社會及び文學等に關する卓見到る所に先ち才情掬すべき美文とその間に光彩を放つ天地間有數の活文字也

大町桂月著 (四六版四百二十頁)

版四 代表日本人 定價八拾五錢 郵税金八錢

此書は日本國民の特性の發揮せる人を擇びて其面目を描き日本國民の前路に光明を與へ教訓を與ふ一風變はれる日本國民の歴史也兼りて道徳經也。

網島梁川著 (菊版總クローヌ頁數約千頁)

版四 梁川文集 定價三圓廿五錢 郵税金貳錢

故網島先生高邁博大的識精慮理到の言恰も燭を把つて照すが如し敢て先生の高風を慕ふ處の諸君に薦む

江見水陰著 (上製)

小女馬賊 定價九拾五錢 郵税金八錢

伊藤銀月著 小怒 定價八拾五錢 郵税金八錢

樋口龍峽 大町桂月共編 寄る波 定價五拾五錢 郵税金八錢

本書は、短篇あり、論文あり美文あり、皆一代の名文也

大町桂月序 小栗風葉跋 王春嶺著 現代二十八人 定價四拾五錢 郵税金六錢

撫子著 風流戰 定價四十五錢 送料六錢

文學士樋口龍峽著 社會主義と國家 定價十五錢 送料四錢

小川芋鏡著

草汁漫畫

定價金六十錢
送料金八錢

田口掬汀著

小葉草

定價八拾錢
送料金八錢

小松小兒科院長 小松貞介先生著

小兒保育法

定價四拾五錢
郵税金八錢

安部磯雄著 (菊版上製四百八十頁)

應用市政論

定價壹圓廿錢
送料拾貳錢

匿名隱士著

破天人論

定價參拾錢
送料金四錢

海老名彈正先生著

基督教本義

定價五拾五錢
郵税金八錢

伊藤銀月著

偉人達人

定價三拾五錢
郵税金六錢

文學博士 桑木嚴著 總シロース製美本)

性格と哲學

定價四拾錢
郵税金八錢

齋木仙醉先生譯

トルストイ教訓小説集

定價參拾錢
郵税金四錢

岩野泡鳴著

新自然主義

定價五拾五錢
郵税金六錢

齋藤無絃著

小天國

定價六拾五錢
郵税金八錢

小栗風葉 小川獸水合作

小女

定價七拾錢
送料金八錢

伊藤銀月編

机上圖書館

全部八册國入之巻開は坐ながら圖書館に入るの感在り

第一編 萬國歷史要領

定價三拾五錢
郵税金六錢

第二編 萬國地理主點

定價參拾五錢
郵税金六錢

第三編 科學新潮

定價三拾正錢
郵税金六錢

第四編 法制綱要

定價參拾五錢
郵税金六錢

第五編 新家庭觀

定價參拾五錢
郵税金六錢

第六編 文學概説

定價參拾五錢
郵税金六錢

第七編 成功指針

定價三十五錢
送料六錢

第八編 人物神髓

定價參十五錢
送料六錢

文學士樋口龍峽著

社會論叢

定價五拾五錢
郵税金六錢

安全なる結婚

定價金拾八錢
郵税金四錢

小栗風葉著 鏑木清方畫 (上製美本)

小説十七八

定價七拾五錢
郵税金八錢

戶張孤雁著

孤雁插畫集

定價五拾錢
郵税金八錢

伊藤銀月著

小説出潮

定價六拾錢
郵税金八錢

半井桃水著

小説濡衣

定價金六拾錢
送料八錢

櫻庭篁村著清方畫(上製美本)
再版 小竹影集
定價六拾五錢
郵税金八錢

伊藤銀月著
再版 社會研究 高原生活
定價金四拾錢
郵税金六錢

文學士 久保天隨著
文壇獅子吼
定價四拾五錢
郵税金六錢

泉鏡花著○清方畫(上製美本)
三版 小無憂樹
定價八拾五錢
郵税金八錢

文學士 久保天隨著
紀行 山水寫生
定價四拾五錢
郵税金六錢

櫻庭篁村著○鏞木清方畫(上製美本)
三版 小不問語
定價七拾五錢
郵税金八錢

日高有倫堂編
基督敎講壇集
定價金七拾錢
郵税金八錢

茅原華山編纂
我 人
定價金貳拾錢
郵税金六錢

泉鏡花著
小 かななもと櫻
定價金四拾錢
郵税金六錢

鈴木秋子女史著
再版 軍國の婦人
定價二拾八錢
郵税金四錢

苦學社編輯
苦學の伴侶
定價金三拾錢
郵税金四錢

横山筆助著
三版 成功したる應用自在
定價金拾五錢
郵税金六錢

齋木仙醉對佛國神學敎授ボア博士
三位一體論
定價金貳拾錢
郵税金四錢

高橋五郎著
英語實驗百話
定價金參拾錢
郵税金六錢

姉崎博士序萬朝報記者茅原華山著
改正五版 向上の一路
定價金三拾錢
郵税金六錢

戶川秋骨著
時代私觀
定價四拾五錢
郵税金六錢

萬朝報記者 茅原華山編纂
再版 青年と詩吟
定價貳拾五錢
郵税金四錢

泉鏡花著○清方畫
三版 小誓之卷
定價七拾五錢
郵税金八錢

山口先生序 シルレル原著 齋木仙醉譯
接神術
定價金廿貳錢
郵税金四錢

杉山先生書簡 黒澤辰三郎編
日本名家手簡
定價金參拾錢
郵税金六錢

田口掬汀氏著(清方畫挿畫數葉)
再版 小追恨
定價金壹圓
郵税金八錢

學士(數學專攻)河野德助著
初代數學講義卷上
定價金壹圓
郵税金八錢

德田秋聲著(上製美本)
小母の血
定價金七拾錢
郵税金八錢

清水橋村君著
新體詩集 筑波紫
定價金四拾錢
郵税金六錢

半井桃水著

小説 萩の下露

價金六拾五錢
送料八錢

大町桂月序 有倫堂編纂

明治大家文集

定價金八拾錢
郵税金八錢

田口掬汀氏著

小説 獨木舟

定價金四拾錢
郵税金六錢

天野誠齋編

名流實話 身體健康法

定價金廿五錢
郵税金六錢

半井桃水著

小説 子寶

定價金六拾錢
郵送料八錢

岩野泡鳴著

闇の盃盤

定價金卅八錢
郵税金六錢

大町桂月先生 中内蝶二先生合著

八版 少女と山水

定價金卅五錢
郵税金六錢

大町桂月先生序 角金潮聲著

六版 宇宙と人生

價金貳拾五錢
郵税金四錢

景山英著

五版 妾の半生涯

定價三拾五錢
郵税金六錢

川上眉山著 清方畫(上製美本)

四版 小説 觀音岩

前後各八十錢
送料八錢
合本一圓卅錢
送料十二錢

日本松居松葉譯

市營と私營

定價四十五錢
郵税金六錢

凡鳥山人著

四版 馬鹿物語

定價金四拾錢
郵税金六錢

田岡嶺雲著

霹靂鞭

定價四拾五錢
郵税金六錢

田口掬汀著

再悲劇 熱血

定價金三拾錢
郵税金六錢

小栗風葉著 (美術的製本)

小説 新粧

價金四拾五錢
郵税金六錢

大町桂月 伊藤銀月 剛修天籟篇

再版 文士寶典

定價金五拾錢
郵税金六錢

海老名彈正先生著

人道

定價金拾錢
郵税金二錢

デヨサイア、スツロンダ原著、石川三四郎譯

二十世紀の大覺醒

定價金三拾錢
郵税金四錢

文學士 久保天隨著

再版 美文 夕紅葉

定價三拾五錢
郵税金六錢

櫻庭篁村著

紀行文 天下泰平

定價四拾五錢
郵税金六錢

德田秋聲著

再版 小説 花たば

定價四拾五錢
郵税金六錢

半井桃水著 清方畫

再版 小説 慰問袋

定價七拾五錢
郵税金八錢

醫學士 佐藤得齋著

美的衛生

定價金四拾錢
郵税金六錢

醫學士 佐々木多聞著

再版 新化粧

定價金四拾錢
郵税金六錢

本居豊穎撰

紫文摘英

定價金卅五錢
郵税金四錢

海老名彈正著

宗教々育觀

定價五拾五錢
郵税八錢

佐々醒雪 白河鯉洋序 稻田薄光編

家庭文藝 名論卓說

定價四拾五錢
郵税八錢

加藤直士譯

トルスの 白露戰爭觀

定價參拾錢
郵税金四錢

高橋五郎著

杜伯品藻

定價參拾五錢
郵税金六錢

蘆風秋元喜久雄譯

四獨逸詩集 紅粉集

定價三十五錢
郵税金四錢

文學士 小原無絃譯

原文對照 ハーシンスの詩

定價三拾錢
郵税金四錢

文學士 小原無絃譯

原文對照 シェレリの詩

定價三拾五錢
郵税金四錢

泡鳴著

新體詩集 悲戀悲歌

定價三十五錢
郵税金四錢

泡鳴著

新體詩集 夕潮

定價三十五錢
郵税金六錢

細越夏村著

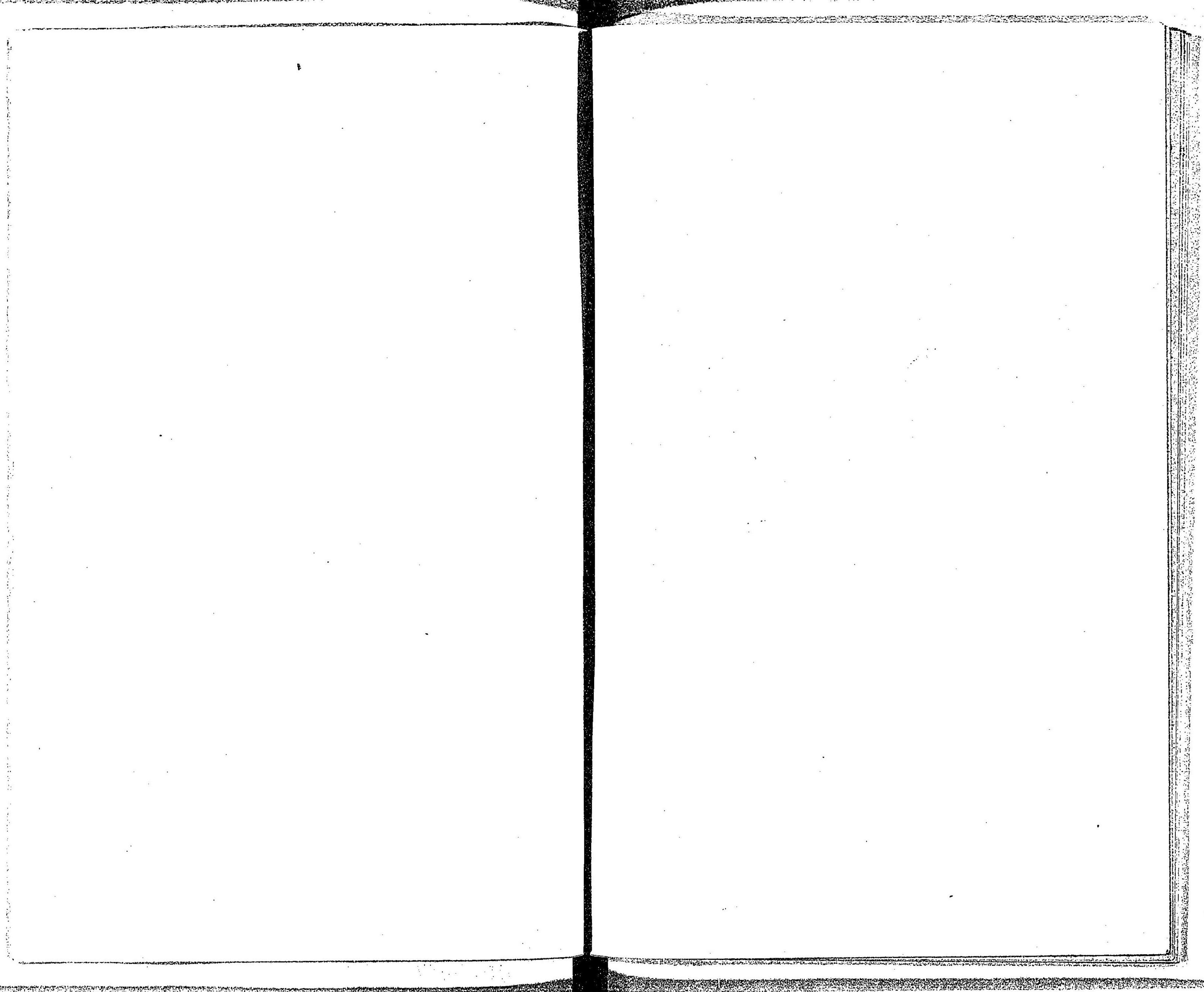
新體詩集 靈笛

定價三拾錢
郵税金四錢

秋元蘆風譯

四獨逸詩集 野葡萄

定價三十五錢
郵税金六錢





GK76
48

300139-000-8

GK76-48

活地獄

小山六之助 / 著

1910. 4

ACK-0002



GA 76
48



915.9

78W30771